

Title	「オックスフォード小冊子」中の時局経済研究
Sub Title	
Author	堀江, 帰一
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1915
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.9, No.5 (1915. 5) ,p.547(71)- 556(80)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19150501-0071

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

爲めに農業を犠牲に供せず、外國食糧の供給杜絶より生ずる危険に對して、堪ゆるの力を備ふればなり。然れども英國并に聯合諸國が獨り海上の權勢を掌握せんか、英獨兩國の經濟的困難に根本的相違を生ずるを免かれず。英國の困難は主として複雑なる近代信用の機關國際間の支拂定期取引に基き、獨逸は英國と同等の程度に於て、是等特殊の困難を感せず現に支拂猶豫法の制定を必要とせざりしを誇るを得たりと雖も、斯る相違は畢竟倫敦が世界金融の中心點たり、外國爲替の微妙なる装置の樞軸たるが故に生じたるものゝみ。而して斯る信用並に市場組織の一時的破壊は之を修理するを得べく、現に英國に於ては、政府銀行並に組織ある利害關係者の協力と手形仲買人、外國に勘定を開ける商人、定期取引に従事する者に與へられたる救助に依て、巧に修理せられ、今や内外に於ける英國經濟的

活動の根據たる生産能力は殆ど平時と異ならざる状態に復するを得たり。蓋し英國産業の生産物中、其三分の二は普通内國に於て、消費せらるゝものなり。然らば戦時に於ても、之と同一の需要を充たすの必要あると共に、英國民が食料品原料品を外國より輸入する以上は、戦争に伴う恐怖の一過したる今日に於ては、斯る消費の大部分が舊狀に復せざるの理由ある可からず。一方に英國の輸出貿易に就て考ふるに、獨逸地地利又は白耳義土耳其との取引の中止に依て、英國輸出の減損したる高は全體の八分の一又は九分の一に過ぎざる一方に、獨逸の失ひたる英本國並に英殖民地に於ける販路は當然英國の工場に依て補はるゝを要し、又從來獨逸の占めたる他國市場に對しては、米國若くは日本企業の活動するものありとするも、尙ほ英國貿易を擴張するの場所たるを得べし。故に信用並に爲替に於

ける困難の除却せられたる今日に於ては、英國が一度び喪失したる貿易を恢復して、寧ろ餘りあるを得るは當然にして、現に昨年七月に比較して、八月に於て三割七分の減損を生じたる貿易は九月に於て三割一分減と爲り、十月に於て二割一分減と爲り、七月と八月とを比較して、二分八厘より七分一厘に昇進したる職工組合の失業率も亦九月に於て五分九厘に、十月に於て四分四厘に減少したり。

英國政府が金融機關の復興に最善の努力を致し、復興せられたる金融機關を通じて、商業取引の恢復を謀りたるは、戦時經濟策の要訣として、最も注目を値する所なり。而して此方針能く其効果を呈し、戦時に於て早く戦争の影響を脱するを得たるは、アッシュレー氏と共に、一般世人の承認するに躊躇せざる所なる可し。然らば、此點に於て獨逸は如何なる地位に立てりや。今回の戦争に於て、獨逸が戦時經濟上に容

易ならざる打撃を蒙れる根本の原因は輸出工業國たる地位に進みながら、貿易を防護するに足る可き海軍力を備へずして、戦争に干與したるの一事に外ならず。姑くアッシュレー氏の言に依て、獨逸が輸出工業國たるに至れる一般の状況を説明す可し。

最近半世紀間に於て、獨逸は急速に工業化したり。千八百八十二年獨逸に於ける商工業従業者は人口全體の四割五分に過ぎざりしが千八百九十五年には五割と爲り、千九百七年には五割六分と爲れり。此間自然力石炭の發見等に依て、製造業が著大の進歩を致したるの事實は之を争ふ可からず。若しも面積廣濶にして、富源の豊饒なる國ならんか、自足状態に居りて、尙ほ製造業の發達を期するを得べしと雖も、獨逸の國情を以てしては、外國の市場を開拓するに非ざれば、廣大なる工業の膨脹を求むる能はず。製造業は原料品の供給

を必要とし、而して外國人は自ら貨物を賣却せざれば、之を購入せざるを以て、大なる輸出は自ら大なる輸入を惹起したり。而して此間獨逸の輸出は製造品を主とし、其輸入は食料品並に原料品に重きを置くに至れり。獨逸は陸上に於て歐洲大陸諸國と聯絡を有すと雖も、斯る聯絡に依て、獨逸に供へらるる市場は比較的狹隘にして、現に千九百年獨逸貿易の七割は海上經由に依り、今日に於ては其割合の更に大なるを見る可し。故に獨逸にして海上權を左右する能はざれば、獨逸の商品は徒に敵國の捕獲に歸するに止まらんのみ。現に今回の戦争に於ける獨逸の貿易状態を見るに、其輸出の四割、其輸入の四割四分は獨逸が敵手としつゝある國と行はるゝものなり。獨逸は西部バルチック海に於ける貿易の外は自國の商船をして貿易に當らしむるを得ず、開戦後捕獲を免かれたる商船も空しく自國港

内に錠繫せざるを得ざるの状態に居れり。然らば中立國の船舶に依り、又中立國を經由して、貿易を行ふの望ありやと云ふに、此點にも亦種々の妨碍なきを得ず。第一獨逸の利用し得べき中立國の船舶には自ら限りあり。即ち中立諸國の船舶は世界商船全體の四分の一にして、此内の一部分が獨逸の利用する所と爲るのみ。第二獨逸が斯る方法に依て輸入し得る貨物の大部分は絶対禁制品か、然らずんば條件付禁制品なるを以て、中立國の船主は是等貨物の搭載を拒絶するに至る可く、第三聯合諸國は自國の主として供給する貨物の輸出を禁止し、又英國の如き獨逸の専ら供給する砂糖の輸入を禁止したり。第四聯合諸國と敵國とに於ける人民の中立國を經由する間接貿易も原產地證明と貨物仕向地申告とに依て制限せらる可く、第五丁抹並にスカンディナヴィア諸國の如き獨逸の近隣に居る中立國

も自國の食糧供給を豊富ならしむる爲め、又聯合諸國との紛議を避くる爲め、今や食料品並に戦争の目的に供用せらるゝ幾多貨物の輸出に制限を加へ、第六北海を交戦區域とする布告並に獨逸自ら浮流水雷を埋設したる事實は北海を經由して、輸送せらるゝ貨物の運賃保險料を禁止的高率に至らしめたり。

斯の如くアツシユレー氏は獨逸戦時の海上交通を不可能とし、又獨逸を以て事實に於て封鎖せられたるものと認む。既に然る以上は、氏が獨逸戦時の食糧供給に就て、悲觀説を爲す亦異とするに足らず。而して其悲觀説たる、頗る系統的なるを覺ゆ。即ち曰く

食物に關しては、從來農業保護の計畫の行はれたるが爲めに、獨逸は英國が同一の場合に陥りたるよりも、良好なるが如し。國民が主たる食料として消費する穀物は今日尙ほ燕麥にして、全部の供給舉げて帝國內に産出せら

る。然も近年小麥粉を以て製造せらるゝ麵麩は漸く一般の消費する所と爲り、所謂黑麵麩中にも小麥粉の混用せらるゝもの少なからざるを以て、小麥は國民の消費する麵麩の五分の二を占むるものと見る可し。而して此小麥の三分の一は外國殊に主として露國より輸入せらるゝものなるに於ては、他の源泉に依て斯る不足を補充するの困難なるは、之を想像するに苦しみます。代價が競争に依て定めらるゝ場合に、供給不足の代價に及ばず影響が不足額に對して、比例を逸するに至るは、經濟學上の原則として一般に承認せらるゝ所なり。英國が官憲自ら食料品の代價を決定するの計畫を行ふこと僅に數週に過ぎざりしに反し、獨逸が常に此計畫に依頼し、殊に穀價の公定に全力を傾注するの一事は兩國々情の相違を語るものと云ふ可く、殊に露西亞より家畜飼料たる大麥の輸入中止したる結果、獨逸

國內に産出せらるゝ大麥が著しく高價となり、大麥より廉價と爲れる燕麥が麵麩の原料たらずして、却て家畜の飼料たるの變態を生ずるに至れり。

戰爭の結末に就ては、アッシュレー氏は聯合諸國が勝利を得るものとし、此指定の下に於て、國際間殊に英國の立國上に及ぼす影響を論斷せんとしたり。而して此般の議論を爲すや、氏が往年故ジョセフ・サムバーレン氏と志を一にして、關稅改革論を鼓吹したる關係上、聊か其好む所に偏するの嫌あるを免かれず。即ち氏の議論を概括すれば、左の數項の外に出でず。

第一、英帝國の統一。

帝國統一に對する眞實の危險は姉妹民族間に於ける意識ある分離に非ずして、寧ろ地方的利害の強く、中心的勢力の弱きに基く無意識なる離反なり。然るに今回の戰爭に於て、自治殖民地が任意に帝國の爲めに協力したる

利用したるものゝみ。今や戰爭の結果、獨逸は殖民地の大半を喪失せざるを得ず。思ふに英國政府は此問題に對し、講和條件決定に臨んで、寛大なる態度を持せんとすると舊の如く爲る可しと雖も、英國以外の政府にして此點に發言するものなきを得ず。領有當時の事情より云はんか、獨逸と雖も、膠州灣の還付を待望する能はず。他の殖民地中、英國の領土を距ること遠く、又英國政府の支配に難きものに至つては、宜しく講和當時の談判に一任す可しと雖も、英國の殖民地が既に征服し又其殖民地の交通圈内に在る獨逸殖民地は當然新なる領有者の掌中に殘る可きものとす。是れ獨逸の自尊心並に權勢を傷くるものなる可しと雖も蓋し已むを得ざるの數なり。

第三、英國經濟政策の革新。

英國人に對して、更に直接の興味ある問題は今回の戰爭が内國經濟政策上に及ぼさんとし

は、即ち帝國統一の感情の鞏固なること示すものにして、各方面に於ける協同的戰闘は相互の認識、理解、尊敬を重ね、共同的記憶の基本たるを得べく、單一なる帝國を創設するに必要な聯合的組織の素地亦自ら發生するを得べし。

第二、英獨の殖民地。

白人の住民を缺き、全く伯林より支配せらるゝ獨逸殖民地と英帝國を組織する自治殖民地並に廣大なる屬領とを比較するの倫を失するは論を俟たず。獨逸人は今日まで新開地に於ける善良なる殖民人たる事實を立證するに至らず。獨逸は人口稠密にして、國內に多數の人民を容るゝの餘地なしとの信念は即ち從來殖民地の擴張に腐心するに至れる一原因と爲れるものなれども、事實に根據を置くものに非ず、唯獨逸は輸出品分配の中心點として、石炭貯藏無線電信聯絡の必要より、殖民地を

つゝある影響是れなり。蓋し政府は時局の必要に促されて、直に經濟上に於ける非干渉を主義としたる傳習的政策を廢棄し國民亦之に賛成の意を表したり。今や政府の信用は商業の各方面に及び、貿易の或るものは輸出禁止令の下に居り、或る種の貨物は政府に依て購入せられ、廣大なる新製造業は政府に依て奨励せられ、現に染料製造の如き、政府の補助金を支給せらるゝものあり。

三

「戰時に於ける食糧供給」と題する小冊子の著者リュー氏の如何なる經歷を有する人士なるや、余の寡聞なる氏が英國農務省書記官の一人として、現に同省に勤務しつゝある以外に之を審にする能はず、而して氏の冊子に於て公にしたる議論たる、頗る正確にして、嘆稱す可きものあり。

英國が今日外國より輸入する食料品の金額は

一年二億磅を下らず、之に茶、珈琲、コ、アの如き飲料物を加へんか、二億二千萬磅に達し、一人當り四磅十五志と爲る可し、而して食料品を英國に供給する諸外國を價格に依て列記すれば、合衆國、アルゼンチン、丁抹、加奈陀、印度、濠洲、露西亞、和蘭、獨逸、ニュージランド、埃地利、匈牙利、佛蘭西、西班牙、錫蘭の順位と爲る可く、此内獨、埃兩國より供給を受くるは、主として砂糖にして、錫蘭より輸入するもの亦茶あるのみ。小麦は専ら合衆國、加奈陀、印度、アルゼンチン、濠洲、露西亞の供給に係り、肉は濠洲、アルゼンチン、ニュージランド、ウルグエーより、豚肉燻製肉は合衆國、丁抹、和蘭、加奈陀より、米は印度より、砂糖は獨逸、埃地利、玖瑪、和蘭、白耳義より、牛酪は丁抹、露西亞、和蘭、濠洲、瑞典佛蘭西、ニュージランドより、乾酪は加奈陀、ニュージランド、和蘭より、果實は西班牙、

合衆國、佛蘭西、加奈陀、カナリー島、コスタリカ、コロンビヤより、茶は印度、錫蘭、ジャア、支那より、コ、アは英領西阿非利加、同西印度、和蘭、伯刺爾、瑞西より、珈琲は伯刺爾、コスタリカ、コロンビヤ、グアテマラ、印度、墨西哥より供給せらるゝを常とす。

上記食料品の品目並に供給國別を通覽して、吾人の第一に感ずるは、今日英國の敵手とする獨、埃兩國より、英國の輸入する重要食料品は一の砂糖あるのみ、他に何ものを存せざる一事なり。固より砂糖以外に、英國は千九百十三年中獨逸より四十二萬二千磅の馬鈴薯、二十四萬六千磅のコ、ア、二十一萬六千磅の鶏卵を、埃地利より三十七萬六千磅の鶏卵を輸入したりと雖も、全體の供給より見れば、九牛の一毛に過ぎざるのみ。故に今日敵國と通商上の關係斷絶するも、英國は砂糖以外に、食料品の正常なる供給を收むるに大なる苦痛を感ずるものに非ざる

なり。然も從來此點に於て、種々の杞憂の生じたるは何故なるか。其理由は戰時に於て食料品の代價に恐慌的騰貴を惹起すの一事に外ならざるが如く、現に往年組織せられたる戰時食料品供給問題委員會も亦調査の結果を概括して、左の報告を爲したり。

吾人は英國人をして實際の飢餓に陥らしむるの狀態の現出するに至るを憂ひずと雖も、然も戰爭が物價に及ぼし、又貧民社會に及ぼす影響に就て、大なる疑懼の念なき能はず、固より物價に生ずる經濟的騰貴即ち戰時に於ける運賃保險料の昂進より生ずるものに就ては深く驚くを要せずと雖も、此以外に大海戰の破裂に依て生ずる興奮の爲めに、重要貨物の代價に起る恐慌的騰貴に對しては、之を閑却する能はず。正確なる報道の普及は恐慌に基く騰貴の繼續を抑制す可く、又其騰貴の甚だしきと共に一方に、供給を増進するの努力亦

行はる可しと雖も、物價の騰貴が其始に於て急劇にして、又或る時期の間繼續するときは、大なる危険を生ずるは勿論にして、吾人は到底斯る危険に對して、冷靜なる能はず。

然らば昨年八月開戰以來十月に至る三箇月間英國は食料品の供給並に其代價の騰貴に就て委員會の報告したるが如き危険を感じたるや否や。先づ各種食料品の上記三箇月間に於ける輸入高を前年の同時期と比較するに左の如し。

(單位は一千ハンドレッドウェイトなり)

	一九一四年 八月一〇月	一九一三年 八月一〇月	増	減
小麦	三、四、六、六、五	三、一、四、五、四	三、二、〇、九	—
小麥粉	一、二、二、三	八、八、二	—	三、四、一
米	一、九、〇、三	二、六、二、六	—	七、二、三
牛肉	一、七、八、四	一、一、一、五	—	三、三、一
羊肉	一、五、二、七	一、六、三、〇	—	一、〇、三
猪肉	一、〇、一、七	一、一、九、七	—	一、八、〇
牛酪	七、八、三	七、三、四	—	—
乾酪	三、七、三、八	四、二、二、一	—	四、九
果實	八、六、四	一、二、〇、六	—	四、八、三
茶	一、一、三	一、一、四	—	二、四、二
珈琲	—	—	—	—

